

1 題材名 思うままにかこう「墨の世界」

2 題材の目標

- 墨でかくことに関心を持ち、自分のイメージを広げたり、工夫したりしながらかくことを楽しもうとする。 (造形への関心・意欲・態度)
- 墨でかきながら、自分のイメージを広げたり画面の構成を考えたりする。 (発想や構想の能力)
- 様々な表現方法を試したり効果を確かめたりしながら、自分らしい表し方を工夫する。 (創造的な技能)
- 互いの作品の形や色、表現の意図や特徴などを捉え、よさや美しさを味わう。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、第5学年及び第6学年の内容A表現(2)ア「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見つけて表すこと」ならびに、ウ「表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表すこと」を受けて設定した活動である。本題材では、墨を描画材として絵をかくという活動を通して、様々な表現方法を試したり、効果を確かめたりしながら、自分らしい表し方を工夫していくことができる題材であると考えられる。

(2) 児童の実態

本学級の児童に対して、事前に表現の能力に関する意識調査を行った結果、作品に表したいことを思い付いたり考えたりすることができるという回答した児童が*人中*人いることから、多くの児童は自分が表現したい思いをもって、創作活動に取り組んでいることが分かった。その一方で、表現したい思いをもてないまま学習を進めている児童が*人いることも明らかになった。また、表し方を工夫したり試行錯誤したりすることが難しいと回答をした児童も*人いた。これらのことから、これまでの授業では、児童一人一人の思いを十分に膨らませ、工夫して表せるような活動の時間や場が十分でなかったことが考えられる。

(3) 指導観

児童の実態を受けて、本題材では、活動の場に材料や用具を数多く用意し、表現の工夫を促すようにするとともに、学習過程に表現のイメージを広げる言語活動を位置付ける。

まず、題材の導入において、絵の具とは違った墨独特のかき心地を十分に味わえるように様々な表現方法を試す活動を行う。活動の場には、墨の特徴が生かせるような材料・用具をあらかじめ準備することによって、児童が自ら表現の方法を見付けることができるようにする。このことによって、児童は、表現の見通しをもつとともに自分の思いに合ったテーマを見付けることができると考える。次に、自分が思い付いた表現のイメージを、ワークシートに絵や文章で表現する。ワークシートの項目は、自分が表現したいことのテーマ、作品のアイデアスケッチ、アイデアスケッチについて言葉で記述できるスペースなどで構成し、ワークシートにかくことで、自分の思いを整理できるようにする。さらに、このワークシートを使って、発想・構想の段階や工夫して表す段階に話し合い活動を位置付けることにより、自分の表現の思いを整理したり、練り直したりできるようにする。

以上の活動を通して、児童は、表現したい思いをもち、表し方を工夫したり試行錯誤したりしながら表現することができるように考える。

4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
墨の表現に関心をもち、自分のイメージを広げたり工夫したりしながらくことや、互いの作品のよさや美しさを味わうことを楽しもうとしている。	墨でかきながら、自分のイメージを広げたり画面の構成を考えたりしている。	様々な表現方法を試したり効果確かめたりしながら、自分らしい表し方を工夫している。	互いの作品の形や色、表現の意図や特徴などを捉え、よさや美しさを味わっている。

5 指導計画（6時間扱い）（○は本時）

時	学習活動・内容	関・意	発・構	技能	鑑賞
1	・墨でかかれた作品を見て、作品に用いられている工夫や感じられる雰囲気などを鑑賞し、製作意欲を高める。	○			○
2 3	・様々な表現方法を試し、いろいろな技法や用具のよさを理解するとともに、自分の表現の見通しをもつ。	○	○		
④ 5	・中心になるものを描き、その形から発想を広げて形を加え、自分の表したい墨の世界を表現する。		○	○	
6	・完成した作品の表現意図や工夫点を互いに紹介し合いながら、それぞれの作品のよさや美しさを味わう。	○			○

6 本時の学習

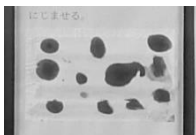

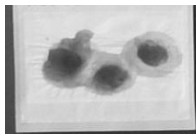

(1) 目標

中心となる形から発想を広げて形を加え、ワークシートに絵や言葉で表現することができる。

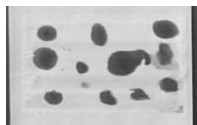
(2) 準備・資料

画用紙、和紙（半紙）、障子紙、画仙紙、墨汁、筆、割りばし、ダンボール、ブラシ、ストロー、刷毛、ほうき、竹串、たわし、水彩絵の具、墨汁を入れる容器、毛筆用下敷き、筆洗バケツ、新聞紙、タオル、はさみ、のり、付箋、ワークシート、学習カード、語彙表

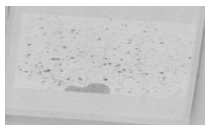
(3) 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分の「墨の世界」を表現するために、中心の形からイメージを広げよう。 </div> <p>2 中心となる形を墨で描く。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>にじみ</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>かすれ</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>ぼかし</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>重ね</p>  </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を提示し、ねらいを明確につかめるようにする。 ・前時の学習活動を振り返り、これからの製作の見通しがもてるようにする。 ・自分のイメージに合う用紙が選択できるように、様々な種類や大きさの紙を用意する。 ・中心となる形を描く際には、前時まで学習した表現方法や筆、割りばし、ダンボール、ブラシ、ストロー、刷毛、ほうき、竹串、たわしなどの用具を準備し、自分のイメージに合ったものを選んで描くように伝える。 ・偶然に生まれた墨独特の面白さや、線と余白の響き合いのよさも感じられるように声をかける。

たらしこみ



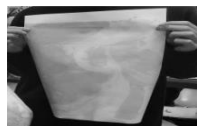
スパッタリング



ドリッピング



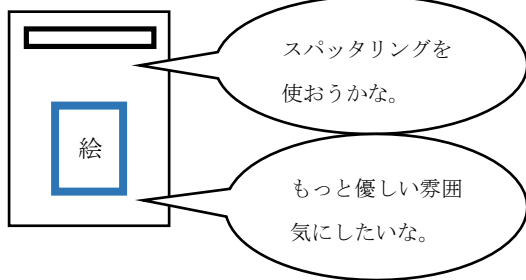
マーブリング



3 中心となる形から発想を広げる。

(1) 中心となる形から広がりのある「墨の世界」を表すためにどのようにすればよいか、構想を練りながらワークシートに記入する。

(2) 自分が構想した「墨の世界」について、3・4人のグループで作品を鑑賞したり話し合ったりして、自分のワークシートを完成させる。



4 本時を振り返り、次時の活動を知る。

中心の形から「思うままに描こう『墨の世界』」へ向かって、作品を完成させよう。

・何枚かかいた形の中で、自分のイメージする世界に合う作品を1つだけ選ぶようにする。

・中心となる形から発想を広げるため、形や色、構成を考えながら自分の「墨の世界」をワークシートに言葉や絵で表すことを伝える。

・絵の具を用いる場合は、墨のよさを生かすことができるよう2色まで使ってよいことを伝える。

・友達との交流が促進されるよう、少人数のグループを編成しておく。

・友達作品を鑑賞したときの気付きや感想、話し合っ中で助言があれば、作品に活かせるように付箋に記入するよう伝える。

・言葉で表現することが難しい児童には、「ことばカード」(語彙表)を用いるよう支援する。

(評)自分の思いに合った「墨の世界」を表現するためにイメージを広げたり、画面構成を考えたりしている。(観察、ワークシート)

・本時の学習活動を振り返り、学習カードに自己評価を記入するよう指示する。

・本時のワークシートを活用しながら作品を完成させていくことを伝え、次時の学習の意欲につなげる。